

中学生が体育授業において望む教師像について  
－運動・体育への態度による比較－

村瀬 浩二<sup>\*1</sup> 生方 謙<sup>\*2</sup>

**A Survey of Junior High School Students on their  
Ideal Physical Education Teacher**  
**A comparison of exercise and physical education preferences**

Koji Murase<sup>\*1</sup> Ken Ubukata<sup>\*2</sup>

**Abstract**

This study surveyed 3,888 junior high school students, compared the differences in their preferences on exercise and physical education and attempted to determine their impression of their ideal PE teacher.

Findings were that students who liked exercise and PE had a tendency to expect their teachers to be good at sports and teach them enthusiastically, whereas those who disliked exercise tended to expect their teachers to enhance the class atmosphere and give them individual instruction. In particular, female students showed a strong desire for individual instruction.

**キーワード**

教師像 中学生 指導雰囲気 個別指導 等質性分析

---

\*1 むらせ こうじ：大阪国際大学人間科学部講師（2010.6.11受理）

\*2 うぶかた けん：芝浦工業大学工学部助教

## I はじめに

体育の授業において運動の好き嫌いは学習者の授業への取り組み方に大きな影響を与える。運動が好きな学習者は体育授業では活発に活動する。対照的に運動が嫌いな学習者は体育授業でも活発な動きをせず、さらに教師や友人との交流も少ない。運動嫌いの原因について佐久本（1970）は、その原因として教師側の要因、運動学習の場の要因、生徒自身の要因、家庭的要因をあげている。小林（1970）や波多野・中村（1981）も同様に運動嫌いの原因を個人の運動能力だけでなく、社会的要因を指摘している。さらに高橋（1992）は子どもたちのほとんどは当初運動好きだが、学年が進み運動遊びから制度化されたスポーツ遊び・スポーツに授業の科目がするとともに運動嫌いが増える傾向にあると述べている。また学校体育の中では運動の好き嫌いとは体育の好き嫌いが必ずしも一致しない。例えば運動嫌いであっても体育が好きな学習者は存在する。逆に運動好きであっても体育が嫌いな学習者もいる。神奈川県立体育センター（2006；2007；2008）の調査では、このような体育の好き嫌いとは運動の好き嫌いが一致しない学習者の存在を指摘している。さらに、10年前の報告と比較して、運動嫌いで体育好きな学習者が増加しており、その理由として体育授業における教師の指導方法の改善を挙げている。これは体育の好き嫌いが運動の好き嫌いと同義ではなく、体育授業の指導方法によってその好みが多分化することを示唆している。これらのことから、本研究では運動の好き嫌いとは体育の好き嫌いを区別して扱う。

ところで、体育の好き嫌いが分化する原因として体育教師の要因があげられているが、松井（1984）は望まれる体育教師像について、小学生には運動に堪能で、一緒に活動し、よく教えてくれる教師、状況によって明るい面、優しい面、厳しい面を使い分ける教師が望まれ、中高生では公正さや人間的に尊敬できる態度、専門的な能力や教養、授業における指導力が望まれると述べている。このように学習者が望む教師像は、発達段階によって変わるものの、運動・体育に対する姿勢の一つの現れとも考えられる。例えば、伊藤（1993）は体育の好き嫌いによって子どもたちが受け止める教師像が変わると述べている。教師像について落合ほか（2007）は、体育・運動の好き嫌いによって小学生が望む教師像が変化することを報告している。このなかで、運動の好きな子どもは教師に対して授業における規律や、運動が堪能であることを求め、運動な嫌いな子どもは優しさや個別指導を求めるとしている。また、性別について男子は運動の堪能さを重視し、女子は個別指導を望むと報告している。さらに学年についてもその上昇に従い、授業内の規律を望む傾向が強まると述べている。また村瀬・安部（2010）は中学生が望む体育教師行動について報告している。この中で女子は男子より教師による積極的介入・支援を望み、否定的介入については望まないことを報告している。さらに運動有能感（岡澤、1996）との関連では努力への信頼感である統制感と教師に望む行動の間に因果関係が認められたことを報告している。これらの報告は学習者の個人内要因によって、生徒－教師間の人間関係や体育授業に対する態度が変化することを示唆している。学習者が望んでいる行動を教師が実践した場合には、授業の満足度が高まること（Chelladurai, 1984; Riemer and Chelladurai, 1995）からも、

学習者が望んでいる教師の理想像を明らかにする意義は高い。

そこで本研究の目的は、体育授業において中学生が教師に望む理想像を運動・体育の好き嫌いや学年、性別ごとに比較・検討することにより、体育授業において生徒が望む教師からの支援を明らかにすることを目的とする。

## Ⅱ 方法

### 1 データの収集

調査内容は以下の通りである。

1. 調査期間 平成18年4月～19年3月
2. 調査方法 質問紙によるアンケート調査
3. 調査対象 K県内中学校3888名（男子1970名、女子1918名）
4. 調査内容
  - (1) 性別、学年
  - (2) 運動・スポーツの好き嫌い
  - (3) 体育の学習の好き嫌い
  - (4) 体育を指導してくれる理想的な教師像（複数回答）

### 2 分析方法

#### 2.1 体育授業における教師の理想像の分類

生徒が体育授業において教師に望む理想像に関する設問では下記の15種類の選択肢が記述されており、「体育授業ではどんな先生に教えてもらいたいと思いますか。以下の選択肢から当てはまると思うものに○を付けてください。」との文章により解答を求めた。これらの選択肢の解答について、「その他」を除いた14種類の選択肢を対象に等質性分析(HOMALS)による分類を行った。

- (1) 明るく活発できびきびした先生
- (2) ユーモアのあるやさしい先生
- (3) 一人ひとりによく声をかけてくれる先生
- (4) よいところはほめ、悪いところは注意してくれる先生
- (5) 生徒の意見を受け止め一緒に考えてくれる先生
- (6) 一緒に運動してくれる先生
- (7) できない人、わからない人に最後まで教えてくれる先生
- (8) どんな運動でもできるスポーツ万能の先生
- (9) わけへだてなく教えてくれる先生
- (10) 運動の方法などをわかりやすく説明してくれる先生
- (11) 時間など約束を守ってくれる先生
- (12) 楽しい工夫のある授業をしてくれる先生
- (13) 熱心に授業に取り組んでくれる先生

- (14) できない人をけなしたり、怒ったりしない先生  
 (15) その他

## 2.2 体育学習における教師の理想像と学年、性別、運動の好き嫌い、体育の好き嫌いとの関連

等質性分析により得られた2次元の値の合計値を各データに追加した。この値を従属変数として、性別と運動の好き嫌い、又は体育の好き嫌いを因子とした2元配置分散分析により比較するとともにその関連を考察した。また、等質性分析により得られた値について学年を因子とした1元配置分散分析を実施し、その関連を考察した。なお、学年については性別や運動・体育の好き嫌いとの交互作用が認められなかったため、性別、体育・運動の好き嫌いとの2元配置分散分析の記述は省略した。分散分析の多重比較では、Tukey法による検定を用いた。

これらの分析のための計算には統計ソフト「SPSS 17.0 for Windows」を用いた。

## III 結果

### 1 体育授業における教師の理想像の分類

体育授業における理想の教師像に関する設問の14の選択肢について等質性分析による分析を実施した。その結果、各選択肢について2次元の数量が得られた(表1)。第1次元でプラス方向に最も大きい値が得られた選択肢は「最後まで教えてくれる」(0.77)、次いで「良いところは誉める」(0.73)、「熱心に授業に取り組む」(0.55)、「一人ひとりに声」(0.48)、「明るく活発」(0.46)であった。マイナス方向に大きな値が得られた選択肢は「わけへだてなく教えてくれる」(-0.76)、次いで「スポーツ万能」(-0.71)、「ユーモアやさしい」(-0.70)、「けなしたり怒ったりしない」(-0.66)、「楽しい工夫ある授業」(-0.59)であった。これらの値からプラス方向が「熱血指導」、マイナス方向が「雰囲気重視型指導」と解釈し、第1次元を「指導の雰囲気軸」と命名した。

第2次元でプラス方向に最も大きい値が得られた選択肢は「けなしたり怒ったりしない」(0.86)、次いで「最後まで教えてくれる」(0.82)、「意見を受け止め一緒に考える」(0.56)、「一人ひとりに声をかける」(0.35)、「わけへだてなく教えてくれる」(0.34)であった。マイナス方向に大きな値が得られた選択肢は「スポーツ万能」(-1.12)であり、次いで「一緒に運動」(-1.09)、「熱心に授業に取り組む」(-1.06)、「明るく活発」(-0.76)、「よいところは誉める」(-0.12)であった。これらの値からプラス方向が「個別指導」、マイナス方向が「運動重視」と解釈し、第2次元を「関わり重点軸」と命名した。

これら等質性分析で得られた2次元の値を図にプロットしたところ(図1)、象限ごとに類似した意味合いを持った選択肢が集まることが確認できた。第1象限は「けなしたり怒ったりしない」、「わけへだてなく教えてくれる」、「楽しい工夫ある授業」、「ユーモアやさしい」、「約束などを守ってくれる」の5つが集まっていることから「優しさ」象限と解釈できる。第2象限は「最後まで教えてくれる」、「一人ひとりに声」、「わかりやすく説明」

の3つから成り立つことから「個別指導」象限と解釈できる。第3象限は「一緒に運動」、「スポーツ万能」から成り立つことから「運動重視」象限と解釈できる。第4象限は「良いところはほめる」、「明るく活発」、「熱心に授業に取り組む」の3つから成り立つことから「授業への熱心さ」象限と解釈できる。

	第1次元	第2次元
スポーツ万能	-0.71	-1.12
一緒に運動	-0.44	-1.09
熱心に授業に取り組む	0.55	-1.06
明るく活発	0.46	-0.76
よいところは誉め	0.73	-0.12
約束などを守ってくれる	-0.55	-0.11
ユーモアやさしい	-0.70	0.16
楽しい工夫ある授業	-0.59	0.22
わかりやすく説明	0.22	0.30
わけへだてなく教えてくれる	-0.76	0.34
一人ひとりに声	0.48	0.35
意見を受け止め一緒に考え	-0.05	0.56
最後まで教えてくれる	0.77	0.82
けなしたり怒ったりしない	-0.66	0.86

表1 体育授業における教師の理想像の等質性分析結果

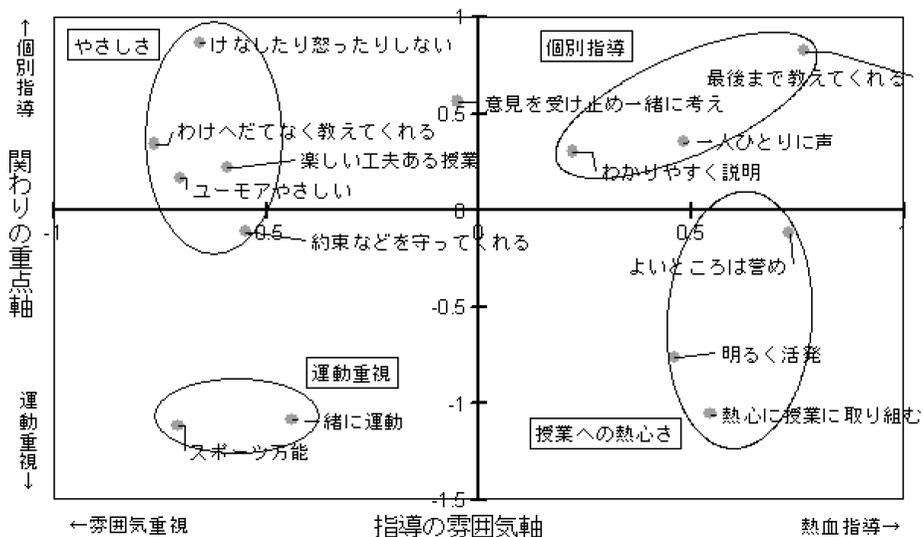


図1 体育授業における教師の理想像の等質性分析結果

## 2 体育学習における教師の理想像と学年・性別・「運動の好き嫌い」・「体育の好き嫌い」との関連

上述の等質性分析で得られた体育授業における教師の理想像に関する2次元の値、「指導の雰囲気」、「関わりの重点」についてケースごとの合計値を算出した。これらを以後「指導の雰囲気得点」、「関わりの重点得点」とする。これら2種類の得点について性別、運動の好き嫌い・体育の好き嫌い、学年による比較を分散分析によって実施した。

### 2.1 指導の雰囲気得点と性別、運動の好き嫌いとの関連

指導の雰囲気得点を従属変数、性別と運動の好き嫌いを因子とした2元配置分散分析を実施した(図2)。その結果、男子の運動好き群(n=1662)は最も「熱血指導」方向に位置し(m=0.02, SD=1.02)、次いでどちらでもない群(n=208, m=-0.16, SD=0.96)、運動嫌い群(n=94)は最も「雰囲気重視」方向に位置した(m=-0.22, SD=1.03)。女子では運動好き群(n=1362)は最も「熱血指導」方向に位置し(m=0.12, SD=1.03)、次いでどちらでもない群(n=314, m=-0.09, SD=1.04)、運動嫌い群(n=243)は最も「雰囲気重視」方向に位置した(m=-0.20, SD=0.98)。この結果、運動の好き嫌いに0.1%水準で主効果が認められたため、Tukey法による多重比較を行った結果、好き-嫌い間に0.1%水準、好き-どちらでもない間に1%水準で有意差が認められた。なお性別についての主効果、性別と運動の好き嫌いについての交互作用は認められなかった。

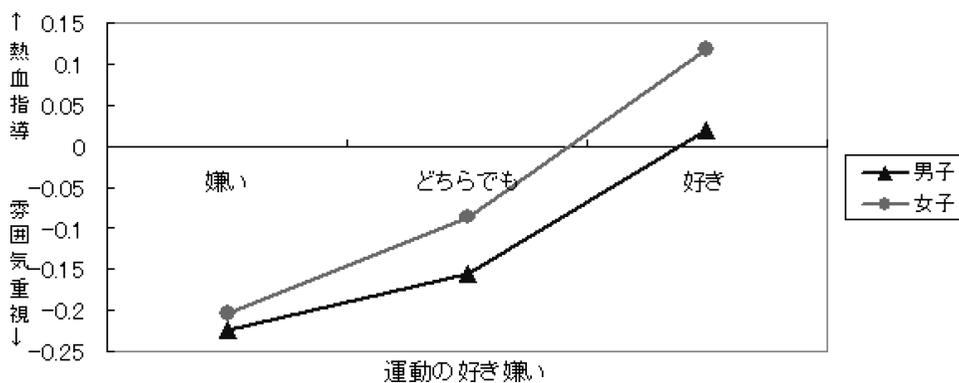


図2 運動の好き嫌いによる指導の雰囲気得点比較(性別別)

### 2.2 指導の雰囲気得点と性別、体育の好き嫌いとの関連

指導の雰囲気得点を従属変数、性別と体育の好き嫌いを因子とした2元配置分散分析を実施した(図3)。その結果、男子の体育好き群(n=1547)は最も「熱血指導」方向に位置し(m=0.34, SD=1.03)、次いで、体育嫌い群(n=110, m=-0.16, SD=1.00)、どちらでもない群(n=299)は最も雰囲気重視方向に位置した(m=-0.18, SD=1.00)。女子では体育好き群(n=1170)は最も「熱血指導」方向に位置し(m=0.16, SD=1.01)、次いでどちらでもない群(n=439, m=-0.12, SD=1.05)、体育嫌い群(n=298)は最も「雰囲気重視」

方向に位置した ( $m=-0.21$ ,  $SD=0.98$ )。この結果、体育の好き嫌いに0.1%水準で主効果が認められた。また、運動の好き嫌いとの性別の交互作用は認められなかった。運動の好き嫌いに0.1%水準で有意差が認められたため、Tukey法による多重比較を行った結果、好き－嫌い間に0.1%水準、好き－どちらでもない間に0.1%水準で有意差が認められた。なお性別についての主効果、性別と体育の好き嫌いについての交互作用は認められなかった。

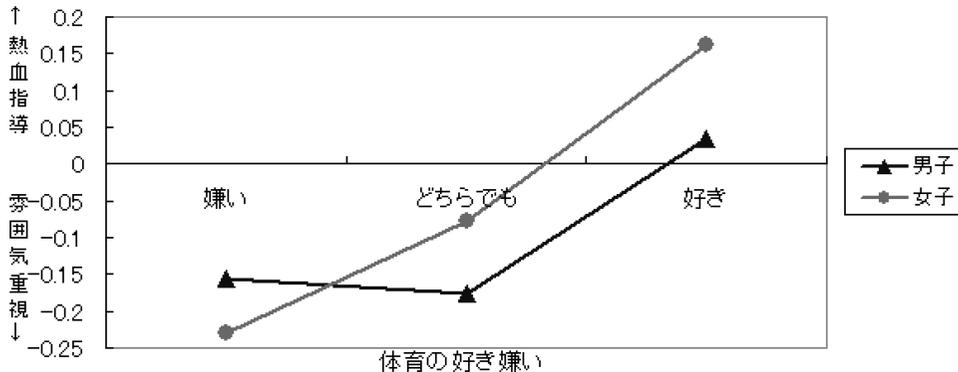


図3 体育の好き嫌いによる指導の雰囲気得点比較 (性別別)

### 2.3 関わりの重点得点と性別、運動の好き嫌いとの関連

関わりの重点得点を従属変数、性別と運動の好き嫌いを因子とした2元配置分散分析を実施した(図4)。その結果、男子の運動好き群は最も「運動重視」方向に位置し( $m=-0.19$ ,  $SD=1.05$ )、次いでどちらでもない群 ( $m=0.27$ ,  $SD=0.95$ )、運動嫌い群は最も「個別指導」方向に位置した ( $m=0.52$ ,  $SD=0.95$ )。女子では運動好き群は最も「運動重視」方向に位置し ( $m=-0.02$ ,  $SD=1.07$ )、次いでどちらでもない群 ( $m=0.44$ ,  $SD=0.94$ )、運動嫌い群は最も雰囲気重視方向に位置した ( $m=0.59$ ,  $SD=0.88$ )。この結果、運動の好き嫌いに0.1%水準で主効果が認められ、性別についても5%水準で主効果が認められた。このため運動の好き嫌いについて Tukey法による多重比較を行った結果、好き－嫌い間に0.1%水準、好き－どちらでもない間に0.1%水準、どちらでもない－嫌い間に5%水準で有意差が認められた。なお性別と運動の好き嫌いについての交互作用は認められなかった。

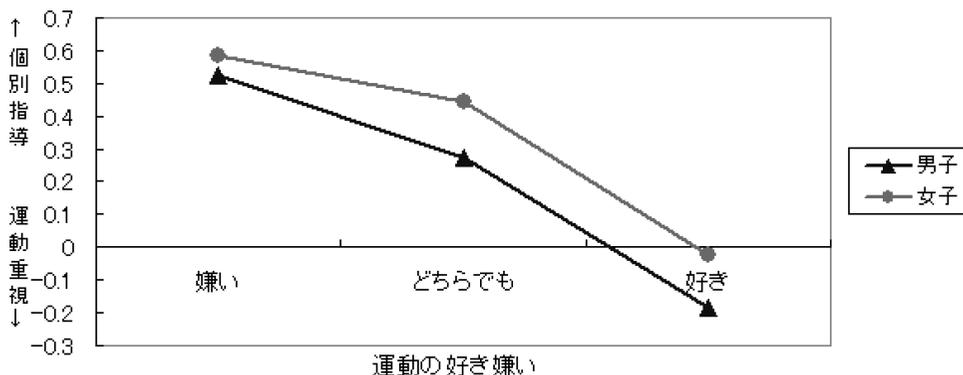


図4 運動の好き嫌いによる関わりの重点得点比較 (性別別)

#### 2.4 関わりの重点得点と性別、体育の好き嫌いとの関連

関わりの重点得点を従属変数、性別と体育の好き嫌いを因子とした2元配置分散分析を実施した(図5)。その結果、男子の体育好き群は最も「運動重視」方向に位置し( $m=-0.22$ 、 $SD=1.04$ )、次いでどちらでもない群 ( $m=0.32$ 、 $SD=0.97$ )、体育嫌い群は最も「個別指導」方向に位置した ( $m=0.43$ 、 $SD=1.01$ )。女子では体育好き群は最も「運動重視」方向に位置し ( $m=-0.06$ 、 $SD=1.07$ )、次いでどちらでもない群 ( $m=0.31$ 、 $SD=1.00$ )、体育嫌い群は最も雰囲気重視方向に位置した ( $m=0.60$ 、 $SD=0.91$ )。この結果、体育の好き嫌いによる主効果が認められ、性別についても5%水準で主効果が認められた。このため体育の好き嫌いについて Tukey 法による多重比較を行った結果、好き-嫌い間に0.1%水準、好き-どちらでもない間に0.1%水準、どちらでもない-嫌い間に1%水準で有意差が認められた。なお性別と体育の好き嫌いについての交互作用は認められなかった。

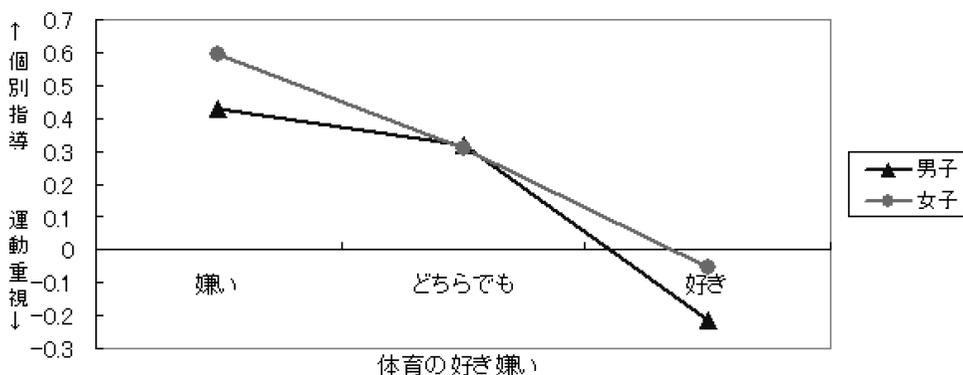


図5 体育の好き嫌いによる関わりの重点得点比較 (性別別)

## 2.5 学年による指導の雰囲気得点の比較

指導の雰囲気得点について学年を因子とした1元配置分散分析を実施した(図6)。その結果、1年生(n=1295)が最も「熱血指導」方向に位置し(m=0.14, SD=1.03)、次いで3年生(n=1314, m=-0.04, SD=1.01)、最も「雰囲気重視」方向に位置したのが2年生(n=1283, m=-0.05, SD=1.04)であり、0.1%水準で有意差が認められた。有意差が認められたことからTukey法による多重比較を行った結果、1年生-2年生間、1年生-3年生間に0.1%水準で有意差が認められた。

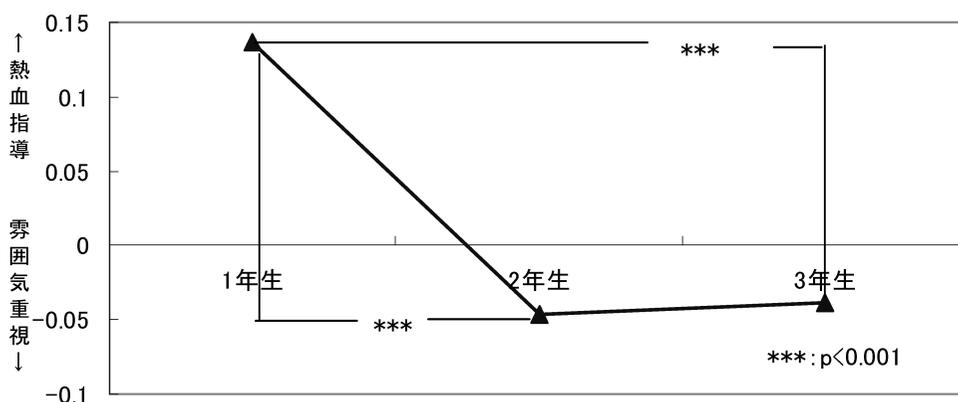


図6 学年による指導の雰囲気得点比較

## 2.6 学年による関わりの重点得点の比較

関わりの重点得点について学年を因子とした1元配置分散分析を実施した(図7)。その結果、3年生が最も「個別指導」方向に位置し(m=0.05, SD=1.03)、次いで1年生(m=0.04, SD=1.09)、最も「運動重視」方向に位置したのが2年生(n=1283, m=-0.05, SD=1.07)であり、5%水準で有意差が認められた。有意差が認められたことからTukey法による多重比較を行った結果、1年生-2年生間、2年生-3年生間に10%水準で有意傾向が認められた。

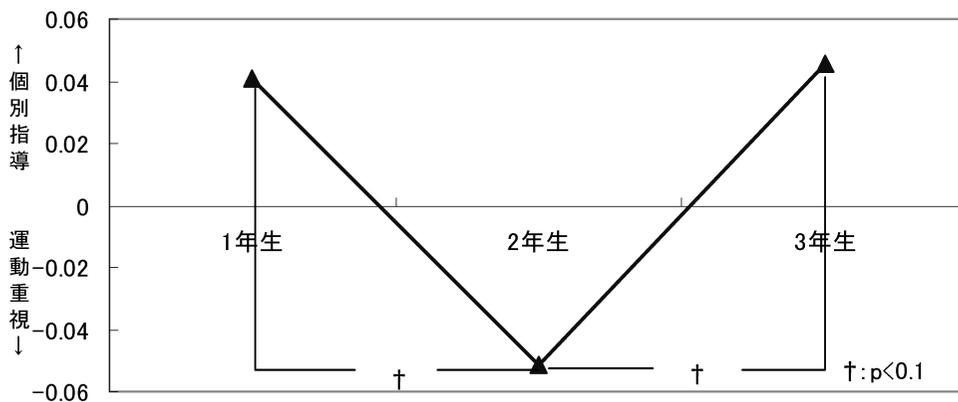


図7 学年による関わりの重点得点比較

#### IV 考察

##### 1 体育授業における教師の理想像の分類

体育授業における教師の理想像について等質性分析を行った結果、指導の雰囲気軸・関わりの重点軸の2次元の軸が得られた。指導の雰囲気軸の「熱血指導」方向では「最後まで教えてくれる」「良いところはほめる」「熱心に授業に取り組む」などの数量が高く、教師が学習者の成長を目指し授業に熱心に取り組む姿勢を想像できる。一方、「雰囲気重視」方向では「わけへだてなく教えてくれる」「ユーモアやさしい」「けなしたり怒ったりしない」「スポーツ万能」など学習の場の雰囲気を楽しく保ち、規律や活動結果にとらわれない柔軟な対応を重視する教師像が伺われる。これはPMリーダーシップにおけるP行動(関係維持行動)と同様の意味合いを持つであろう。落合ほか(2007)では小学生を対象とした調査結果から同様の分析を行い、「厳しさ-優しさ」から構成された「関わりの厳格さ軸」が報告されている。本研究においても「雰囲気重視」については「優しさ」とほぼ同様の結果が得られた。しかし、落合ほか(2007)では主に「厳しさ」を構成していた選択肢が本研究の調査項目では設定されていなかった。そのため「厳しさ」が、本研究では「熱血指導」に置き換えられたと解釈できる。

また関わりの重点軸については「個別指導」方向に「けなしたり怒ったりしない」「最後まで教えてくれる」「意見受け止め一緒に考える」などが高い数量を示しており、学習者に対して教師が個別の状況に応じた指導を心がける姿を想像できる。一方「運動重視」方向では「スポーツ万能」「一緒に運動」「熱心に授業に取り組む」が高い数量を示し、教師に運動が堪能であることを重視し、技能学習の手本となる姿と解釈できよう。この関わりの重点軸については落合ほか(2007)の結果と同様の結果が確認でき、小学生と中学生の教師像の構造に共通性を見いだすことができる。

##### 2 体育学習における教師の理想像と学年・性別・「運動の好き嫌い」・「体育の好き嫌い」

## との関連

### 2.1 指導の雰囲気得点と性別、運動・体育の好き嫌いとの関連

指導の雰囲気得点を性別、運動の好き嫌いによる2元配置分散分析によって比較した結果、運動の好き嫌いに主効果が認められた。多重比較の結果、運動が好きでな者ほど教師に熱血指導を望む傾向が強く、運動が嫌いな者ほど雰囲気を重視した指導を求める傾向にあると解釈できる。体育の好き嫌いにおいてもほぼ同様の結果が認められたことから、運動・体育の好きな者は教師にもより熱心な指導を求めるが、嫌いな者は明るく楽しい雰囲気を重視した授業を望んでいると解釈できよう。

### 2.2 関わりの重点得点と性別、運動・体育の好き嫌いとの関連

関わりの重点得点を性別、運動の好き嫌いによる2元配置分散分析によって比較した結果、運動の好き嫌い、性別による主効果が認められた。これは運動が好きでな者ほど教師に対しても技術指導を重視した指導を求め、逆に運動が嫌いな者ほど個人の状況に対応した指導を望むと解釈することができる。また、性別については男子の方が教師による技術指導を望み、女子は個別の状況に応じた指導を望んでいると解釈することができる。体育の好き嫌いについてもほぼ同様の結果が得られたことから、運動の好き嫌い、体育の好き嫌いは理想の体育教師像にほぼ同様の影響を与えると解釈できる。

### 2.3 学年による指導の雰囲気得点の比較

学年を因子として指導の雰囲気得点を1元配置分散分析によって比較したところ、1年生は2年生3年生より有意に熱血指導を望む傾向にあることが確認された。この結果は年齢の上昇に伴い、指導者に対して課題志向行動（P行動）を望むようになるという報告（Chelladurai and Carron,1983）に反しており、落合ほか（2007）の報告とも合致しない。本結果がこれらの報告と合致しなかった原因は、中学生の運動・体育嫌いの割合が学年の進行とともに増加するためと考えられる。Chelladurai and Carron（1983）の報告はスポーツチームに所属する選手を対象としており、落合ほか（2007）は小学生を対象としていることから、学校体育における中学生を対象とした本研究では先行研究の知見と合致しないと考えられる。

### 2.4 学年による関わりの重点得点の比較

学年を因子として関わりの重点得点を1元配置分散分析によって比較した。その結果、2年生は他の学年より運動を重視する傾向にあった。この結果は思春期における中学生の不安定さを現していると推察できる。1年生より2年生の方がより精神的に安定し、体育授業においても技能向上を強く目指しているが、3年生では受験などへの不安から体育授業においても教師によるソーシャルサポートを望む傾向が強くなると解釈することができる。

## V まとめ

本研究の目的は体育授業における理想の体育教師像を性別、運動・体育の好き嫌いから検討することであった。その結果、運動や体育の好きな者は教師に熱心な指導や技術指導を望む傾向にあり、運動・体育の嫌いな者は明るく楽しい雰囲気重視した体育授業や個々の状況に応じた指導を望むことが明らかになった。また、性別については女子は個々の状況に応じた指導を望み、男子は技術指導を重視することが明らかになった。学年については学年の上昇に伴い雰囲気を重視した指導を望んでいた。これら学習者の運動・体育の好き嫌いによる体育授業で望まれる指導内容の変化を教師側が意識することにより、個別指導など学習者の授業満足度を高める (Chelladurai, 1984; Riemer and Chelladurai, 1995) ことにつながるであろう。

本研究では落合ほか (2007) とほぼ同様の結果が中学生においても確認できた。ただし、落合ほかの報告の中では体育の好きな学習者の中でも運動の好き嫌いにより、教師の理想像が変化するとされていたが、本研究では確認できなかった。これは小学生段階では運動嫌いで体育好きの学習者が存在するものの、中学生では授業内容が組織スポーツへの発展に伴い (高橋、1992) それらの学習者も体育嫌いに変化することが推察できる。また学年については合致しておらず、この確認のためにはさらに発達段階を進めて検討する必要がある。

## 文献

- Chelladurai, P. and Carron, A.V., "Athletic maturity and preferred leadership," *Journal of Sport Psychology*, vol.5, 371-380, 1983
- Chelladurai, P., "Discrepancy between preference and perceptions of leadership behavior and satisfaction of athletes in varying sports," *Journal of Sports Psychology*, vol.6, 27-41, 1984.
- 神奈川県立体育センター「学校体育に関する児童生徒の意識調査～小学校の意識調査～」、2005年、  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4317/sidoukenkyubu/kenkyusitu/kenkyu/h17-1.pdf>
- 神奈川県立体育センター「学校体育に関する児童生徒の意識調査～中学生の意識調査～」、2006年、  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4317/sidoukenkyubu/kenkyusitu/kenkyu/h18-1.pdf>
- 神奈川県立体育センター「学校体育に関する児童生徒の意識調査～高校生の意識～」、2007年、  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4317/sidoukenkyubu/kenkyusitu/kenkyu/h19-1.pdf>
- 小林 篤「運動ざらいにさせるものは何か」、『*体育の科学*』20巻、5号、1970年。
- 波多野 義郎・中村 精男「運動嫌いの生成機序に関する事例研究」、『*体育学研究*』第26巻、第7号、1981年。
- 伊藤 精男・波多野 義郎「『体育授業嫌い』の生起に関する因果推論の試み」、『*体育学研究*』第27巻、第3号、1982年。
- Riemer, H.A. and Chelladurai, P., "Leadership and satisfaction in athletics," *Journal of Sport & Exercise Psychology*, vol.17, 1995.
- 松井 貞夫「小・中・高校生が望んでいる優れた体育教師像」、『*体育の科学*』第34巻、第1号、1984年。
- 村瀬浩二・安部久貴「中学校体育授業において教師に望まれる行動」、『*体育学研究*』第55巻、2010年。
- 落合優・加藤務・村瀬浩二「小学生の運動・スポーツに対する意識について」、『*横浜国立大学教育人間科学部紀要 I*』第9巻、2007年
- 岡澤祥訓・北真佐美・諏訪祐一朗「運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究」、『*スポーツ教育学研究*』第16巻、第2号、1996年。

中学生が体育授業において望む教師像について－運動・体育への態度による比較－

佐久本 稔「運動ぎらいにさせるものはなにか」、『体育の科学』第20巻、第5号、1970年。  
高橋 健夫「運動嫌いと体育授業」、『児童心理』第46巻、第11号1992年。

